

1 前提

該当する地域	県下 中山間地
設定した経営規模	りんどう70a、水稻50a
自家労働	2.0人
その他	①セル成形苗を使用し、4年間収穫。毎年、栽培面積の2割を更新する。 ②出荷調製は花き共同選花施設を利用する。

2 作付体系

年次	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目					◎								
2年目													
3年目													
4年目													
5年目													切り上げ

凡例：○播種、……育苗期間、△仮植、◎移植・定植、△ハウス、∩トンネル、——栽培期間、□収穫

3 施設機械装備

但し R = (1 - 残存割合) (単位：円)

種類	構造能力	面積 台数	取得価額	本作目 負担率	負担価額 (A)	償却額 (B) (A) × R	耐用 年数 (C)	年償却額 (D) (B) ÷ (C)	経過 年数 (E)	期首現在 価額 (F) (A) - (D) × (E)	自己資本 割合 (G)	自己資本 利子 (F) × (G) × 利率
作業場	木・瓦	26 m <sup>2</sup>	1,300,000	60	780,000	780,000	15	52,000	8	363,998	100	14,560
トラクタ	4WD・20ps	1台	1,567,000	20	313,400	313,400	7	44,771	4	134,314	50	2,686
ロータリ	140cm	1台	306,000	20	61,200	61,200	7	8,743	4	26,229	50	525
管理機	3.5ps	1台	185,000	100	185,000	185,000	7	26,429	4	79,284	100	3,171
動力噴霧機	可搬式 6ps	1台	151,000	100	151,000	151,000	7	21,571	4	64,716	100	2,589
軽トラック	660cc、4WD、350kg	1台	850,000	70	595,000	595,000	4	148,750	2	297,500	100	11,900
合計			4,359,000		2,085,600	2,085,600		302,264		966,042		35,431

## 4 技術体系 (10a 当たり)

作物名	品 種	栽培様式・作型	10a 当たり収量	ほ 場 条 件	作付面積
りんどう	早生、中生、晩生	露地	19,000本	耕土深く排水良好な水田	70a

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準					燃 料 消費量 (ℓ/10a)
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	10a 当たり作業時間			
						機械利 用時間	組 員 時 間	延労働 時 間	
(定植1年目) 圃場の準備	11/上～11/中	完熟堆肥 テノロイ 苦土重焼燐 過石 ミネラル宝素	4,000kg 100kg 60kg 60kg 100kg	トラクタ ロータリ	○土壤改良資材を散布し深耕しておく ○全層施肥とする。 ○ほ場の排水対策を徹底しておく。	0.8	1	3.2	軽油 4.0
畝立て及び 土壤消毒	11/下～12/上	ガスタート微粒剤 白黒マルチ (135cm)	10kg 6本	管理機	○植え床は幅60cm、通路70cm、30cm以上の高うねとする。 ○雑草防除のためガスタート微粒剤を表面処理し、白黒マルチをする。 ○このままで翌春まで放置する。	1.2	1	1.6	ガソリン 1.2
定植準備	3/下			人力	○マルチに植え穴を開け、同時に発芽テストをする。		1	1.6	
定 植	4/下	セル成形苗 ジベレリン錠	7,500株 8錠	人力	○ジベレリン100ppmを定植前に苗に散布 ○セル成形苗に十分灌水し、定植する。 (条間30cm、株間20cm)		1	12.0	
追 肥	5/上	有機化成A801 硫マグ	50kg 50kg	人力	○追肥及びマルチ内の熱風を出すための穴を開ける。 ○有機化成A801、硫マグを開けた穴から施用する。		1	1.6	
マルチの穴開け	8/下～9/上			人力	○生育に合わせてマルチの穴を大きくする。		1	1.6	
敷きわら	11/中			人力	○防寒のため敷きわらを敷く。		1	8.0	
(定植2年目以降) 敷きわら除去 追肥(春肥)	3/上	有機化成A801 苦土重焼燐	100kg 30kg	人力	○うね中央部分のマルチを切り開いて、有機化成A801、苦土重焼燐を施用する。		2	12.0	
株仕立て	4/上～6/下			人力	○1株当たり10本以下の株は行わない ○1株当たり10～15本程度の株は草丈30～40cmに伸びた時(生育良いもの) ○1株当たり15本以上の株は草丈10cm頃までに15本にし他は株元より折りその後1株当たり10～15本仕立てと同様に行う。 ○収穫最終年は1株当たり5～7本を残し、他は早めに除去する。		2	24.0	
敷 わ ら	4/中～4/下	稲わら	600kg	人力	○雑草防除、地温抑制のため行う。		2	12.0	
ネット張り	4/中～5/上	アワネット(15cm×4目) 支柱(1.5～1.8m長)	600m/1段 600本	人力	○高さ20cm前後に1段目を張り、生育に応じてネットを上げ、さらに2段目、3段目を張る。		2	24.0	
か ん 水	4/下～9/下			人力	○欠株を防ぐため、高温期は夕方、低温期は午前10時頃うね間かん水する		1	50.0	
除 草	4/下～10/上			人力	○雑草が小さいうちに手取り除草する		2	16.0	

技術体系

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準					
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	10a当たり作業時間			燃 料 消費量 (ℓ/10a)
						機械利 用時間	組 人員	延労働 時 間	
防 除	4/中～10/下	ダコニール1000 オゾサイト水和剤80 ターズバンドF ピラニカEW アデマイオンフロアブル ヘフラン液剤25 アドマイヤーフロアブル トレボン乳剤 ジェイエース水溶剤 ジェイエース粒剤 トップシオンM水和剤 ポリヘリン水和剤 ストロビーフロアブル スミチオン乳剤	1,000ml 835g 100g 200ml 402ml 402ml 200ml 200ml 400g 3kg 268g 400g 200ml 400ml	動力噴霧機	○葉枯病、褐斑病、スリップス、 リンドウホソハマキの防除を行う。	36.0	2	62.0	ガソリン 36.0
追肥（花肥）	5/上～7/中	有機化成A801	40～50kg	人力	○開花50～60日前に行う。		1	8.0	
収穫調製	6/下～10/下	こも		人力	○頂花が2輪以上着色または開花した ものを収穫する。 ○十分に水揚げした後、選花場に持ち 込む。	26.0	2	37.0	ガソリン 20.0
追肥（礼肥）	8/上～11/上	有機化成A801	50～20kg	人力	○株養成のため切り花終了後に行う。		1	8.0	
茎葉の片付け	11/下～12/上			人力	○茎葉が枯れ上がったら刈り取って焼 却する。 ○病気が多発した場合は早めに片付け る。		2	16.0	
合 計								300.6	

5 経営試算(10aあたり)

区分	科目	金額	説明	
粗収益	主産物価額③	972,000	生産量① : 18,000 本 単価② : 54 円/本	
	主産物価額	0	生産量 : 単価 :	
	主産物価額	0	生産量 : 単価 :	
	副産物価額④	0		
	計 (A)	972,000		
生産	種 苗 費	79,500		
	肥 料 費	39,651	使用資材等は技術体系のとおり	
	農 薬 費	35,997	"	
	諸 材 料 費	87,311	"	
	動力光熱費	11,374		
	農 具 費	7,461	機械負担価額×4%	
	建物等修繕費	1,114	建物・構築物負担価額×1%	
	賃 料 料 金	0		
	共 済 掛 金	0		
	雇 用 労 賃	2,103		
	減価償却費⑤	43,181	別表のとおり	
	土地改良費	3,983		
	支払地代⑥	3,214		
	小計 (B)	314,888		
費	販売費一般	出荷資材費	52,200	
	管理費	販 売 諸 費	332,352	
		諸税負担金	8,363	農協賦課金、車検料、固定資産税
		事務研修費	4,633	農業新聞購読料、電話代
		支払利息⑦	229	借入資本利率2%
		小計 (C)	397,778	
経 営 費 (D)	712,666	注) (D) = (B) + (C)		
家族労働費見積額 ⑧	401,310	農 従 労 働 時 間 : 298.0 生産管理労働時間 10.7 1,300 円/時間		
支払利子・地代算入生産費(E)	1,113,976	主産物単位当たり 62 円/1本 注 (E) = (D) +⑧-④		
自己資本	流動資本利子⑨	21,411	注) ⑨= ((E)-⑤-⑦) / 2 × 0.04	
利子(F)	固定資本利子	5,062	利率4%	
自 作 地 地 代 (G)	4,286			
全算入生産費 (H)	1,144,735	生産物単位当たり 64 円/1本 注) (H) = (E) + (F) + (G)		
所 得 (I)	259,334	時間当たり 840 円 注) (I) = (A) - (D)		
所 得 率 (J)	27	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100		
農企業利潤 (K)	-172,735	注) (K) =③- (H)		
家族労働報酬 (L)	228,575	時間当たり 740 円 注) (L) = (I) - (F) - (G)		
農業資本利潤 (M)	-141,976	注) (M) = (I) -⑧		

